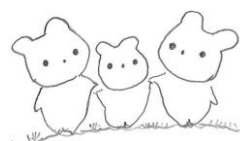


このコーナーは、区民大学“生涯学習コーディネーター養成講座”修了生が企画し取材した「区民による区民のための」手作り記事です！

シリーズ

# つなごう。OTA その39



大森西青年施設(現大森西区民センター)発 ⇒

## はばたく地域活動

### 蒲田バードカービングクラブ ～ 本物のような鳥を削り出す楽しみ ～

#### ♣バードカービングってなあに？

『バードカービング』とは、木の塊（木材）を彫り出し彩色して作られた鳥の彫刻です。愛鳥週間も過ぎた5月下旬、五月晴れのなか、大田区民ホール・アプリコで開催中の『蒲田バードカービングクラブ』の作品展に出かけて、かわいい“小鳥たち”に会ってきました。

“小鳥たち”は表情豊かで、今にも飛び立ちそうです。人気のカワセミは、作品の色合いがそれぞれに違っていています。同クラブ代表の富家定男さんによると、来場者に「どの色が本物？」とよく聞かれるそうです。その度に、「どれも本物」と答えます。作り手がカワセミを見た季節、時間、光線によって見える色が違うからです。



日本のバードカービングは、約30年前に剥製の代わりに飾ろうという動きが起こり、野鳥を保護するために観賞用として作られるようになりました。一方、発祥地アメリカでは、1800年頃に先住民（インディアン）がカモ等を狩るためのおどり図として生まれました。

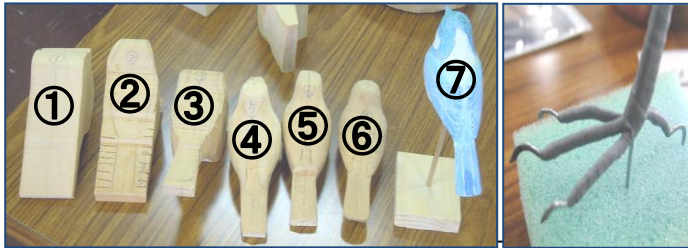
#### ♣クラブ発足のきっかけは

平成12年度大森西青年施設の環境講座「大田の野鳥バードカービングとウォッチング」の受講生と、講師・宮下正之さんが立ち上げた団体「鳥と自然の会 バーダー」が前身です。その後現在の名称に変更し、大田区民センターで活動を続けています。バードカービングは実物を見ることが基本。秋冬を中心に、多摩川河川敷や公園へ定期的に行っているそうです。

#### ♣削るのは丁寧に、塗るのはあっさり 制作現場を訪ねました。



はじめに、自分で撮ってきた写真や図鑑に載っている鳥の「初列風切羽しよれつかざきりばね」の長さを測ります。次に実寸表と照らし合わせて他の部分の寸法を割りだし、彫る鳥の平面図を描きます。平面図は側面、上面、正面の3種類用意します。その平面図を薄紙かクリアファイルに複写して鳥型にくりぬき、木材の各面に写します。写したら、側面からノコギリで荒削りをした後、正面・上面をナイフで細かく削って形を整えていきます。図面は平面、鳥は立体なので、平面図を木材にきちんと写せなくても、削りながらバランスを合わせていきます。



(左) 木材から“鳥”になる過程。主に、木目が少なくクセのない外国の木材“ジェルトン”を使用  
(右) 足は針金に縫糸やテープを巻いて仕上げる。

色塗りは、すぐ乾き色が落ちないアクリル染料絵具を使います。厚く塗るとテカテカして自然な仕上がりにならないので気を付けます。目とクチバシは反射効果のあるグロスポリマーを、足先の爪にはニスを使い仕上げます。一羽、約 2~3 か月で完成します。富家さんの「削るのは丁寧に、塗るのはあっさり」という言葉が印象的でした。

初心者にはマンツーマンで指導します。まず教材用の図面を模倣することから始めて、鳥の基本形（真横の静止姿）を覚えます。次第に自分はどうな鳥を彫りたいのか——首を傾げたり羽根を広げたり、複数羽でいる様子にしたり——、個性を出すよう宮下先生は指導します。

基本の道具はノコギリ、ナイフ、大小 2 本の彫刻刀ですが、上達するとより緻密な表現を求め、より多くの道具を揃えていく方もいるそうです。

取材した私達 4 人も、11 cm ほどのタンチョウツルに色を付けました。簡単なようで点や線が繊細で悪戦苦闘。時間を忘れて夢中になり、かわいい宝物ができました。会員の皆さんの、コツコツ

仕上げていく根気強さや喜び、楽しさに少し触れたような気がしました。

### ♣新しい出会いと集中できる空間

現在会員は 60~70 代の男性 10 名です。入会のきっかけは「区報で知った」「妻に勧められた」など様々です。現役時代、パソコン仕事に疲れ、休日にバードウォッチングをしていて、退職後に入会した方もいます。またある方は、「木を削ったり磨いたり人間の本能に近い」と言い、仲間から刺激を受けてもっと上達したいと話していました。制作中は各自、集中して鳥と向き合っていますが、合間に皆さんで作品を持ち寄って話をして息抜きもします。

木の香りが心地よい教室で、木の温もりを手を感じながら身近な鳥から彫ってみませんか？ サポートは万全です!!

### 蒲田バードカービングクラブ

代表：富家

(TEL：090-3536-3296)

活動日：第 1、3 木曜日

午後 1 時半~4 時半

会費：半年 6000 円

★当クラブから分派した兄弟クラブ「雪谷バードカービングキツツキ会」は女性会員もいます。



編集：「つなごう OTA」編集委員会

### 《取材を終えて》

♪ はじめての取材で、バードカービングクラブの活動を見学するという貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。目標を持って集中し、続けると、なんとかできるんじゃないかと感じています。とても勉強になりました。(王 羽鶴)

♪ 今回、初めてバードカービングという名前を聞き、作品を見せてもらったりタンチョウツルの色付け体験をしたりサークルの皆さんが気さくな方々で楽しい時間でした。森ヶ崎水再生センターでオーストラリアから渡来してくる「コアジサシ」が鳥の巣を作るのに、作品を砂利の上に置いて誘導に使っているなど思いがけない身近なところにあるんだなと思いました。(藤間 真由美)

♪ 作品展を見たとき、とてもきれいでかわいらしいが、こんな細かい仕事をよくやるなというのが第一印象だった。しかし例会で皆さんが作っているところや、話を聞くうちに皆さんの真摯な努力に感動しました。私にはできませんが、皆さんの今後の更なる活動に期待をしています。(菱沼 公平)

♪ 穏やかな優しい表情をされた会員の皆さん、それぞれ思い思いの豊かな時間の中で、まるでご自分の分身のようなかわいい宝物の小鳥たちが次々誕生します。野鳥保護からも奥の深い世界を思います。(服部 由美子)

### 【お詫びと訂正】

社会教育情報 7 月号「つなごう OTA その 37」で掲載した卓球サークル「どんぐり」の連絡先が誤っていました。お詫びして訂正いたします。正しくは、「連絡先：03-3742-8522 (菅野仁)」となります。